

平成 28年 9月 28日

敬愛短大附属幼稚園だより 10月号



失敗と書いて「せいちょう」と読む



秋季運動会が無事終わりました。今年の運動会でも、かけっこで転ぶ子どもがいました。練習の時は転ぶことがなかったのに当日だけのこともあります。しかし、転んだ子どもは大きなけがをすることなく、自分で立ち上がって泣きながらでも最後まで走ります。このことは年少・年中・年長の年齢に関係なくがんばる力が伸びてきていると思います。転んだとき自分で起き上がる力があれば、次に生かすことができます。これからの長い人生、何かで挑戦した時に失敗する（転ぶ）ことが多くあるはずですが。題で紹介した言葉は、元プロ野球監督野村克也さんの著書にあります。「失敗」と書いて「せいちょう」と読む。失敗するのは当たり前、大切なのは失敗を次につなげることだと述べています。人は失敗から多くを学びます。誰かに教えてもらうのでなく、失敗の意味を自分で考えることで自分を成長させます。運動会を通して子ども達は大切なことを学んでいるのです。

かけっこの話が続きます。走ることが運動の基本とよく言われます。今年も午後に卒園児のプログラムがありました。運動会で、園児の走る姿と小学生の走る姿の両方を見ることができました。年少の走りや年長の走りはちがいます。さらに年長児と小学校6年生の走りは大きく違ってきます。毎年のように、本園の運動会で見ることのできる光景です。今年も小学生の参加者は100名を超えていました。一番多いのは卒園したばかりの1年生ですが、各学年の子ども達が元気よく走ってくれました。卒園生がこれだけ多く集まり競技に参加してくれることは園としてとてもうれしいことです。それぞれの小学校でも活躍しているのでしょう。片付けのとき鉄棒の近くにいた卒園生が、前まわりができるよと園長の私に見せてくれました。自分の帰ることができる園があり、そこには元担任の先生がいる、そして同じ園を卒園した仲間も集まっている。こうしたことは本園のすばらしさだと思います。伝統として続けてほしいと思います。

9月の園だよりや運動会の開会式で園庭改修工事について紹介しました。今回の運動会を日曜日に予定通り行うことができたのは、今回の工事のお蔭です。当日の朝、園庭はすっかり水が引き、乾き始めていました。園庭中央部は乾き、周辺が少し湿っている程度でした。昨年までは、教職員が早く幼稚園にきて古いタオルなどで園庭の水分をすいとり、そして、新しい土を入れていました。昨年も教職員がこの作業をしたことをよく覚えています。この園庭改修工事は幼稚園の要望をもとに、数年前から計画したものです。理事会等で計画と予算が決定し工事が始まりました。お世話になった方々に改めてお礼を言いたい気持ちです。この工事を一番喜んでいるのは子ども達です。園庭で遊ぶ、固定遊具で遊ぶ、楽しそうに笑顔で遊んでいます。さらに、雨が降ると水たまりができぬかるんでいたところがアスファルト舗装され、保護者の方の迎えのとき環境がよくなったという声もよく聞きます。やはりよりよい教育をするためには環境が大切です。

9月の園だよりについて、ある保護者から感想をいただきました。保護者の皆様、お気づきやご感想などありましたら、担任までお寄せください。（山中 護）